

みやまの風



令和8年2月2日(月)発行

園長 津田 将美

寄 松田

カラー版はHPで…幼稚園HPのQRコードです↑

家族の時間

先日職員室で仕事をしていると、寄幼稚園の子どもたち総勢5人、そろって園長を訪ねてきました。

「園長先生、お願いがあるんですけど…」

「何ですか？言うてごらん。」

「あのね、今度の園外保育、すっすが最後だから、すっすの行きたいところに行きたいんです。」

「へーえ、どこですか？」

「いせはらこどもかがくかん！！」

園外保育の行きたい場所を伝える声はきれいにそろって、子どもたちの目は、キラキラと輝いていました。

年長さんにとっては最後の園外保育。だからこそ、楽しんでもらいたい、いい思い出を作ってほしい。家族のように過ごしてきた仲間だからこそ思える連帯感、親近感。長く続けてきた家族の時間も、今のメンバーではゴールがはっきりと見えてきています。

「みなさんのやさしい気持ちはわかりました。どうぞ、行ってきてください！」

「やった～！！」

自分の喜び、仲間の喜び、みんなの喜びが重なり合って、広がっていきました。



今、園では保育参観発表会の練習が佳境となっています。こちら年長さんにとっては、最後の発表会となります。なかなか練習を観ることができない園長ですが、先日初めて通して観ることができました。

劇を通して伝わってくるのは、子どもたちが本当にこの劇を大切に、楽しみながらやっているということです。一人ひとりの表情から、その雰囲気伝わってきます。ただ観ているだけでも、とても心地よい空間でした。

劇中の言葉は、セリフを言っているというよりは、日常の自然な会話のように聞こえます。職員に聞くと、アドリブもかなり入っているそうです。日常の遊びや自分たちががんばっていることをそのまま劇にしているからでしょう。

子どもたちにとっては、劇の練習も遊びの延長です。だからこそ出てくる素直な心、感じたことをそのまま表現した言葉のひとつひとつ…。正に家族の時間をそのまま劇に乗せて運んでいるようでした。

昨年好評だったフック船長は、今年かみちゃん魔王として再び子どもたちの前に立ちだかかります。さて、今年どんな冒険が待っているのでしょうか。子どもたちは冒険の扉を開け、その世界を広げている最中です。

ご期待ください。

